

參照

●支那事變被害調查委員會官制

昭和十三年四月二十八日
勅令第二百九十六號

朕支那事變被害調查委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總理、外務大臣副署)

支那事變被害調查委員會官制

第一條 支那事變被害調查委員會ハ外務大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ支那事變ニ因リ在支帝國居留民等ノ被リタル損害ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條 委員會ハ會長一人及委員十人以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ外務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ外務大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク外務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ臨時命ヲ承ケ調査ニ從事ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク外務大臣之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●領事裁判委員會官制

昭和十五年三月三十日
勅令第百十八號

(總理、外務
大臣副署)

朕領事裁判委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 領事裁判委員會ハ外務大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジ支那ニ於テ帝國ノ行フ領事裁判ノ運営ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條 領事裁判委員會ハ會長一人及委員十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス
特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ外務大臣ヲ以テ之ニ充ツ
委員及臨時委員ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス
會長事故アルトキハ外務大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 領事裁判委員會ニ幹事ヲ置ク外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 領事裁判委員會ニ書記ヲ置ク外務大臣之ヲ命ズ
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



支那事變被害調査委員會々議ノ要録

年	月	日	會議	議	題
一三	四	一五	準備會議	被害調査委員會設置ニ關スル件	勅令公布ニ關スル件
"	四	二七	委員會成立		
"	五	一〇	委員會	被害調査根本方針ニ關スル件	在外公館ニ對スル訓令案、館令案等ニ關スル件
"	五	一五	幹事會	現地ニ調査機關設置ニ關スル件	
"	六	一	委員會	被害調査根本方針ニ關スル件	在外公館ニ對スル訓令案、館令案等ニ關ス

外務省

一四、 二、二 三	” 一 二、 五	” 一 一、 二 二	” ” 二 一	” ” 一 七	一三、 六、三 幹	事 會 被 害 調 查 委 員 會 ヨ リ 附 託 ノ 訓 令 案 審 議 ニ 關 ル 件
”	”	”	”	”	”	”
同上被害賠償ニ關シ英國大使館ト折衝ニ關スル件	蕪湖及南京ニ於ケル英國商船被害賠償ニ關スル件	獨逸人被害取扱方ノ件	第三國人被害調査ノ爲天津及南京ニ人員配置ノ件	獨逸人「ビルト」博士及同濟大學被害ニ關スル件	同上被害賠償ニ關シ英國大使館ト折衝ニ關スル件	同上被害賠償ニ關シ英國大使館ト折衝ニ關スル件

外務省

一四	四一〇	幹事會	特定對外懸案現地解決方ノ件
"	"	"	スル件
"	"	"	同
"	"	"	上
"	"	"	蕪湖及南京ニ於ケル英國商船被害賠償ニ關
"	"	"	シ英國大使館ト折衝ニ關スル件
"	"	"	特定對外懸案現地解決方ノ件
"	"	"	獨、伊、米文化施設被害現地解決方ノ件
"	"	"	第三國人救恤程度決定基準表作成ノ件
"	"	"	獨伊米文化施設被害現地解決方ノ件
"	"	"	西少佐ノ現地調査事務進捗狀況説明及獨伊
"	"	"	米ノ文化施設優先解決方ノ件

外務省

一四一〇二一	幹	會	依知川中佐ヨリ上海陸軍調査部事務進捗報告並米國關係案件現地解決訓令方ノ件
〃 一三二一五	〃	〃	救恤額査定方ニ關シ現地ニ係官派遣調査ノ件
〃 二二	〃	〃	上海海軍被害調査部員ノ現地調査事務現況報告ノ件
一五 一八	〃	〃	對米懸案解決促進及救恤額増額ニ關スル件
〃 二一六	〃	〃	南京及蕪湖ニ於ケル爆撃ニ因ル英國商船及個人損害ニ關スル件
			第三國人被害救恤ニ關シ特定國、非特定國ノ區別及文化施設ト一般被害トノ區別撤廢

外務省

一六	五	一六	〃	〃	一五	五	二〇	幹	事	會	方ノ件
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	英國人關係救恤金ヲ磅貨ニテ支拂方申入ニ對シ英國側ニ回答振ノ件
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	第三國人被害救恤ニ關シ特定國、非特定國ノ區別等ニ關スル件
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	今次事變ニ因ル財産及身体上ノ損害、特ニ身体上ノ損害ニ對シ賠償又ハ救恤ヲ早日ニ實施スルノ可否ニ關スル件
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	重慶爆撃ニ關シ第三國人ヨリ被害申出ニ對スル應酬振上海總領事ニ訓令方ノ件
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	南京及蕪湖ニ於ケル爆撃ニ因ル英國商船及

外務省

<p>一六八二三</p>	<p>幹事</p>	<p>個人損害ニ關スル件 會資金凍結令ト第三國人救恤金トノ關係ニ關スル件</p>
--------------	-----------	--

外務省

領事裁判委員會

一 議 題

外務大臣ノ諮問（領事裁判ノ運営ニ當リ適用スヘキ法規ノ整備ニ關シ考慮スヘキ點）中支那ニ於ケル帝國臣民取締ニ關スル勅令案要綱

一 委員會開催

昭和十五年五月二日

同 年十月四日

同 年十一月九日

一 幹事會開催

昭和十五年四月十一日

同 年五月八日

同 年七月十八日

同 年七月二十五日

昭和十五年七月三十日

同 年八月八日

同 年八月二十日

外
務
省

(日本標準規格B5)

附記

法制局 主査 參事 官

昨年八月九日閣議決定當時外務省所管の委員會にして官制の現に公布せられて居たものは

- 一 對支文化事業調査會
- 二 支那事變被害調査委員會
- 三 領事裁判委員會

の三者である。右の内對支文化事業調査會官制は本年三月末勅令第三百七號に依て既に廢止せられて居るから本件を以て外務省所管の委員會の整理は完了する次第である。

以上

内閣

昭和十六年八月廿二日
外第四二號

條二祕第九三九號

秘

昭和十六年八月二十六日

主任者、條約局第二課長

外務大臣 豊田 貞次郎

近衛 文 麿 殿



廢止請議ニ關スル件

令併ノ案

四事裁判委員會官制廢止ノ爲勅令ヲ制定
四議ニ提出致候間公布方可然御取計相成

小中一〇〇

外務省

別紙添附



朕領事裁判委員會官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年 月 日

内閣總理大臣 公爵近衛文麿

外務大臣 豊田貞次郎

勅令第 號

領事裁判委員會官制ハ之ヲ廢止ス

↑附↑則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理 由 書

昭和十五年八月九日閣議決定ニ基キ領事裁判委員會ヲ廢止スルノ
必要アルニ因ル

外甲一二一

共
十
十
五

昭和十一年十月九日

內閣書記官長

內閣書記官



內閣總理大臣



法制局長官



外務大臣



海軍大臣



商工大臣

厚生大臣



內務大臣



司法大臣



遞信大臣



平沼國務大臣

大藏大臣



文部大臣



鐵道大臣



柳川國務大臣

陸軍大臣



農林大臣



拓務大臣



鈴木國務大臣



別紙外務大臣請議在外公館職員定

法制局

一一

員令中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ修正案ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

修正案ノ通

朕外務部内臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年十月十四日

内閣總理大臣

外務大臣

勅令第九百七號

外務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第二條ノ三中「大使館商務書記官 專任三人」ヲ「大使館商務書記官 專任二人」ニ改ム

「大使館參事官 專任一人」

「大使館一等書記官 專任二人」

「大使館二等書記官 專任三人」

「大使館三等書記官 專任六人」

第三條中

「大使館參事官 專任一人」

「大使館一等書記官 專任二人」

「大使館二等書記官 專任三人」

「大使館三等書記官 專任六人」

専任五人
 専任五人
 専任九人

二、
 「大使館理事官
 大使館電信官
 専任一人」
 「大使館理事官
 大使館電信官
 専任二人」

「副領事
 外交官補
 専任一人」
 「副領事
 外交官補
 専任二人」

二、
 領事官補
 書記生
 通譯生
 電信書記生

専任二十人

「
 領事官補
 書記生
 通譯生
 電信書記生」
 専任三十四人

ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

在外公館職員定員令第一條第一項第二號中「九十七人」ヲ「九十六人」

ニ改ム

理由

在タイ國帝國大使館ノ機構整備ノ爲改正ノ要アルニ依ル

（Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in several vertical columns.)

泰國大使館新機構

定員

親任 一名
勅任 二名
奏任 一名
判任 一名
計 三名

大使

泰國大使館員內譯
總領事館員兼
任者キアリ其内
キ合マルナ

大使 一名
參事官 二名
一等書記官 四名
二等書記官 四名
三等書記官 一名
計 三十八名

經濟部書記官中ニハ他省ヨリ特別任用ニヨリ採用セラルヘキ專門家技術者等
ルヘキニ付現行任用令ヲ改正セサル限リ二等書記官三名ハ三等書記官五名ハ商務書記官名儀トナルヘシ

情報部
計 七名

陸軍武官室

政務部
兼官房
計 十九名

海軍武官室

經濟部
計 九名

參事官	一名
一等書記官	一名
二等書記官	一名
三等書記官	一名
書記生	三名

參事官	一名
一等書記官	一名
二等書記官	一名
三等書記官	一名
通譯官	一名
外交官補	一名

一等書記官	一名
二等書記官	二名
三等書記官	二名
書記生	四名

諜報、僑務
宣傳、文化
機略

一般對外交
涉及企畫
官房

理事官	一名
電信官	一名
副領事	一名
書記生	二名

文書
電信
會計

領事官
分三系統
ヲ別スル

財務、通商
調查、工務
農林、鑛務

◎人員及配置ハ
変更スルコトアルベシ
希望主トシテハ全濟
部ヲ多少増強
スルコトアルベシ。

他兼任領事官アリ
本年八月官制改正後
料中掲記人員トシテ
回増員ノ人員トシテ
ハ本表ト符合ス。後日
取調ナルコトトシテ
ノ原案附員トシテ



在泰國大使館擴充ニ要スル經費算出内譯

科	目	第二豫備金 支出要求額	算出内譯
臨時部	臨時外交施設費	(五ヶ月分) 圓	
	在泰國大使館充實費	二二八九〇〇	參事官一人 年額五、一〇〇圓 共一、〇〇〇圓
	勅任俸給	二、一、二、五	一等書記官三人、三、六、四〇圓 二等書記官二人、三、二、〇〇圓 三等書記官三人、二、五、七〇圓 共一、〇〇〇圓
	奏任俸給	一、三、五、一、二	共一、〇〇〇圓

判任俸給 五七四五

在勤俸 四四九七九

理事官一人	年額	二八〇〇圓	二二八〇圓
電信官一人	"	二八〇〇圓	二二八〇圓
外交官補一人	"	一八〇〇圓	一八〇〇圓
副領事一人	"	二二八〇圓	二二八〇圓
△商務書記官一人	"	△三六四〇圓	△三六四〇圓
書記生一四人	"	九八五圓	二六九五圓
參事官一人	"	一〇〇〇圓	一〇七九五圓
一等書記官三人	"	六六〇〇圓	一九八〇〇圓
二等書記官二人	"	五二五〇圓	一九五〇〇圓
三等書記官三人	"	四五〇〇圓	一三五〇〇圓
理事官一人	"	四五〇〇圓	四五〇〇圓
電信官一人	"	四五〇〇圓	四五〇〇圓
外交官補一人	"	三八五〇圓	三八五〇圓
副領事一人	"	四五〇〇圓	四五〇〇圓

借地所家屋料	家族旅費	外國旅費	渡切費	應賞費	妻加俸
一	二	六	二	三	一
〇	〇	〇	六	七	三
〇	〇	八	〇	〇	四
〇	九	七	〇	七	九
〇		九	〇	六	三

書記生一四人 " 三二〇〇圓四四八〇〇圓
 △商務書記官一人 " 八〇〇〇圓△八〇〇〇圓

計

在勤俸 一〇七九五〇圓ノ810 三二三八五圓

本省分 二六〇〇圓 九二七九

在外分(館費、實費、物件費ニ相當ス)六五〇〇圓 九一〇〇

赴任旅費 四六四九二

出張旅費 三四五三〇

(一四三七八七圓)

二一〇〇九

二四〇〇〇

"

"

"

"

雜給及雜費 一四六二五	電信料 八六六六	勅任一戶 一戶二四〇〇圓 二四〇〇圓	奏任一戶 一戶二〇〇〇 一三二〇〇〇	判任一四戶 一戶六〇〇〇 八四〇〇〇	本省 七八〇〇圓	在外 一三〇〇〇圓	(館費、實費、人件費ニ相當ス) 三三一〇〇圓
							二〇八〇〇圓

法制局外第 四 五 號

昭和十六年九月廿七日

極秘

法制局



人極秘第一〇四九號

昭和十六年九月二十七日

主任者、人事課長

外務大臣 豊田貞次郎

内閣總理大臣 公爵近衛文麿殿

在外公館職員定員令中改正ノ件

本件ニ關シ別紙案文ノ通勅令御發布相成候様致度此段及請議候也



外甲二二一

外務省

朕在外公館職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年 月 日

内閣總理大臣
外務大臣

外務省

勅令第 號

在外公館職員定員令中左ノ通改正ス

第一條第一項第一號中「三十四人」ヲ「三十五人」ニ、同項第二號中「九十七人」ヲ「百四人」ニ、同項第五號中「十五人」ヲ「十六人」ニ、同項第六號中「十人」ヲ「十一人」ニ、同項第七號中「九十九人」ヲ「百人」ニ、同項第八號中「六十一人」ヲ「六十二人」ニ、同項第九號中「五百二十二」ヲ「五百三十六人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

在タイ國帝國大使館充實ノ爲左記職員ヲ増置セントス

參事官	一
一等書記官	三
二等書記官	二
三等書記官	三
副領事	一
理事官	一
電信官	一
外交官補	一
書記生	一四

尙ホ從來ノ左記職員ハ右増員ノ書記官ノ定員ト組替ノ爲減員セ
ントス

商務書記官

一

〔參照〕

明治三十二年六月二十日
公 布 勅令第二百八十一號

在外公館職員定員令抄錄

第一條第一項

外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官、公使館電信官、外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ノ定員左ノ如シ

一 特命全權公使、大使館參事官、大使館商務參事官及辨理公使ハ通シテ三十四人

二 大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記

官、大使館商務書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及公使館商務書記官ハ通シテ九十七人

五 大使館理事官及公使館理事官ハ通シテ十五人

六 大使館電信官及公使館電信官ハ通ジテ十人

七 副領事ハ九十九人

八 外交官補及領事官補ハ通シテ六十一人

九 外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ハ通ジテ五百

二十二

在「タイ」國帝國大使館擴充ニ關スル説明書

最近英米側ノ我方ニ對スル政治及經濟壓迫ハ逐日急迫強化セラレツ
ツアル處我國々防上「タイ」佛印ガソノ南方防備ノ第一線基地タル
ハ勿論自給經濟ノ確立上コノ兩國ガ南洋ニ對スル我國經濟發展ノ足
場タルヘキハ今更贅言ヲ要セス

以上ノ見地ニ基ツキ此兩國ニ於ケル帝國外交經濟機關ノ擴充整備統
一ハ刻下ノ急務タルニ鑑ミ佛印ニ對シテハ曩ニ閣議決定ニ基ツキ出

先帝國ノ機關ヲ擴充スルト共ニ之レヲ全部特派大使ノ下ニ統一スル
ノ案ヲ決定シタルガ「タイ」國ニ對シテハ現地外交々渉ノ重要性ニ
鑑ミ帝國公使館ヲ大使館ニ昇格スルノ外「シンゴラ」及「チエンマ
イ」ノ兩領事館ヲモ開館スルニ至レル處「タイ」國大使館ノ機構ハ
本年七月三十日陞格ニ伴フ大使一參事官一_一等通譯官一書記生二ノ
増員ヲ見タリト雖モ右増員案ハ國際情勢カ今日程急迫セス且「タイ」
國ノ地位ガ現在アル如ク然ク我國ニ對シ重要性ヲ加ヘザリシ前年度

ニ於ケル立案ニ基キタルモノナレバ今日ニ於テハ右機構ヲ以テシテ
ハ到底充分ナル活動ヲ期待シ得ザルニ付臨機同館ノ人員充實ヲ計リ
來レル處近來本邦各官廳ヨリ種々ノ用務ヲ以テ同國ニ出張又ハ駐在
スル者増加シ又「タイ」國ニ於ケル資源及企業調査ノ目的ヲ以テ他
省ヨリ専門家ヲ派遣セントスルノ内意モ鮮カナラズ更ニ本邦商社、
邦人ノ數モ客年來激増ヲ加ヘ當業者間ニ相當ノ競合混雜ヲモ來シツ
ツアルニ鑑ミ之等出先帝國諸機關ヲ綜合統一シ我大使館ノ指導監督

ノ下ニ對外經濟工作ノ統一整備ヲ達成スルノ急務ナル處今般右帝國
大使館ノ機構擴充ニ關スル經費ヲ第二豫備金ヨリ支出方御裁可ヲ經
タルニ付テハ現在「タイ」國大使館ノ機構ニ參事官一名、一等書記
官三名、二等書記官二名、三等書記官三名、理事官、電信官、外交
官補、副領事各一名書記生十四名ヲ增強シ同時ニ書記官ノ人員ト組
替ノ爲商務書記官一名ヲ減員スルコトト致度次第ナリ。

寫

藏計第一二八一號

昭和十六年十月一日

大藏大臣 小倉正恒

外務大臣 豊田貞次郎 殿

昭和十六年度第二豫備金支出ノ件通知

對昭和十六年七月十七日
會普通第五八九號照會

左記ノ通り昭和十六年度第二豫備金支出ノ儀昭和十六年九月二十五
日勅裁ヲ經タリ

記

外務省

外 務 省	款 項 目							金 額		
	渡 切	廳 費	賞 費	妻 加 俸	在 勤 俸	判 任 俸 給	奏 任 俸 給	勅 任 俸 給	圓	備 考
	四 二 七 九 六	四 九 五 五	四 〇 七 六	一 三 四 九 三	四 四 九 七 九	五 七 四 五	一 二 五 一 二	二 一 二 五	二 七 六 九 二 八	項目設置

昭和十六年度
外務省所管
歲出臨時部
臨時外交施設
在泰國大使館
充實費

外
務
省

外 國 旅 費	家 族 旅 費	地 所 家 屋 借 料	電 信 料	雜 給 及 雜 費
六 四 七 七 九	二 二 〇 〇 九	一 七 九 〇 〇	一 五 三 八 一	二 六 一 七 八

(日本標準規格B5)

○昭和十六年第二豫備金支出臨時外交施設費（在泰國大使館充實費）俸給抄
 勅任俸給 二、一、二、五圓

内譯左ノ如シ

區分	員數	一人當年額	備考
大使館參事官	一	五、一〇〇	但シ五ヶ月分
奏任俸給	一、二、五、一、二圓		
一等書記官	三	三、六四〇	但シ五ヶ月分
二等書記官	二	三、二〇〇	
三等書記官	三	二、五七〇	
理事官	一	二、二八〇	
電信官	一	二、二八〇	
副領事官	一	二、二八〇	
外交官補	一	一、八〇〇	
判任俸給	五、七、四、五圓		
書記生	一、四	九、八、五	但シ五ヶ月分

法制局



内閣

備考

奏任俸給一、二、五、一、二圓ノ算出基礎ハ

一等書記官	三人	一〇、九二〇圓
二等書記官	二人	六、四〇〇圓
三等書記官	三人	七、七一〇圓
理事官	一人	三、二八〇圓
電信官	一人	三、二八〇圓
副領事	一人	三、二八〇圓
外交官補	一人	一、八〇〇圓

ノ合計年額三、三、六、七〇圓ヨリ減員ニ係

ル商務書記官一人年額三、六、四〇圓ヲ控除シタル年額三〇、〇三〇圓ノ
五ヶ月分一、二、五、一、二圓五〇錢ナリトス

參照

●外務部内臨時職員設置制

昭和三年五月二日
勅令第七十八號

改正 昭和四年第一九七號、七年第一七五號、第三三五號、八年第一〇六號、九年第一號、
第一四五號、一〇年第二三〇號、一一年第二四〇號、第三二〇號、第四五三號、一
二年第二五六號、第五五七號、第六七九號、一三年第四四號、第二二八號、第二七二
號、第四六五號、第七六一號、一四年第一四一號、第四六一號、第八〇九號、一五
年第七五五號、第八五〇號、一六年第四二七號
朕昭和二年勅令第八十九號外務部内臨時職員設置ノ件改正ノ件ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務大臣副署)

第二條ノ三 通商振興ニ關スル事務ニ從事セシムル爲在外公館ニ左ノ職員
ヲ置ク

- ▲大使館商務書記官 專任三人
- ▲公使館商務書記官 專任二人
- 領事 專任三人
- 副領事 專任五人
- 書記生 專任一人

第三條、時局ニ關スル外交事務ニ從事セシムル爲在外公館ニ左ノ職員ヲ置ク

- 大使館參事官 專任一人
- 大使館一等書記官 專任五人
- 大使館二等書記官 專任三人
- 大使館三等書記官 專任八人
- 大使館一等通譯官 專任二人
- 大使館二等通譯官 專任四人
- 大使館理事官 專任五人
- 大使館電信官 專任一人

公使館電信官

專任一人

副領事

專任一人

外交官補
領事官補

專任二人

書記生
通譯生
電信書記生

專任二十三人

日本標準規格B4判(十一行全)(山田納)

參照

●在外公館職員定員令

明治三十二年六月二十日
勅令第二百八十一號

朕在外公館職員定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總理、外務大臣副署)

在外公館職員定員令

- 第一條 外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官、公使館電信官、外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ノ定員左ノ如シ
- 一 特命全權公使、大使館參事官、大使館商務參事官及辨理公使ハ通シテ三十四人
 - 二 大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、大使館商務書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及公使館商務書記官ハ通シテ九十七人
 - 三 總領事、領事及貿易事務官ハ通シテ百十二人
 - 四 大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ハ通シテ二十人
 - 五 大使館理事官及公使館理事官ハ通シテ十五人
 - 六 大使館電信官及公使館電信官ハ通シテ九人
 - 七 副領事ハ九人
 - 八 外交官補及領事官補ハ通シテ六十一人
 - 九 外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ハ通シテ四百二十七人
- 項定員ノ外訴訟事件及非訟事件ニ關スル事務或登記事務ニ從事セシム爲領事官ノ副領事ヲ通シテ十人及外務書記生十人ヲ置ク
- 外交官領事官ヲ兼任シ又ハ領事官外交官ヲ兼任スルトキハ其ノ兼任ハ定員ノ内ニ算入セス

賈ハ亦二豫備金支出ノ由ニ有之
岩勅裁通知單ハ追而送付アル等



本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

書

諸本員會等ヲ整理スルニ趣旨ニ依リ支那事變被害

員會ハ之ヲ廢

止セントスルニ依ル

外務省

外甲 二二七

昭和十六年十月十五日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十六年十月十五日
昭和十六年十月十五日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣



海軍大臣



商工大臣



厚生大臣

後

内務大臣



司法大臣

八

逓信大臣



平沼國務大臣

大藏大臣



文部大臣



鐵道大臣



柳川國務大臣

本

陸軍大臣

後

農林大臣

物

拓務大臣



鈴木國務大臣



別紙外務大臣請議外務部内臨時職員

設置制中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅 令 案

呈案附箋ノ通

極秘

法務局



昭和十六年十月十五日
外
八

人極秘第一一〇一號

昭和十六年十月十五日

主任者、人事課長

外務大臣 豊田貞次郎

内閣總理大臣 公爵近衛文麿殿

外務部内臨時職員設置制中改正ノ件

本件ニ關シ別紙案文ノ通勅令御發布相成候様致度此段及請議候也



16.10.15
書文



外甲 一七

外務省

朕外務部内臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十六年十月二十一日

内閣總理大臣

外務大臣

勅令第九百二十六號

外務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第三條中「大使館三等書記官 專任九人」ノ次ニ

「總領事 專任

領、事 專任

四人 内二人ヲ勅任ト
爲スコトヲ得

ヲ加ヘ「副領事 專任二人」ヲ「副領事

十五人

「書記生

專任五人」ニ、

通譯生

電信書記生

專任三十四人

ヲ

「書記生

通譯生

電信書記生

專任六十二人 二改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

佛印特派大使ノ機關強化ノ爲左記職員ヲ増置セントス

勅任總領事 二

奏任總領事 二

領事 一五

副領事 三

書記生 二八

參照

外務部內臨時職員設置制

昭和三年五月
勅令第七十八號

總理外務
大臣副署

第三條 時局ニ關スル外交事務ニ從事セシムル爲在外公館ニ左ノ職員ヲ置ク

大使館參事官	專任二人
大使館一等書記官	專任五人
大使館二等書記官	專任五人
大使館三等書記官	專任八人
大使館一等通譯官	專任二人
大使館二等通譯官	專任四人
大使館理事官	專任三人
大使館電信官	專任二人
公使館電信官	專任一人
副領事	專任二人
外交官補 領事官補	專任三人
書記生 通譯生 電信書記生	專任三十三人

★
秘

外務省所管昭和十六年度第二豫備金支出要求書

科目		第二豫備金	備考
支出要求額		備	
臨時外交部	臨時外交施設費	一三六八三七七	
機在佛印特派大使	機關諸費	一三六八三七七	
勅任	俸給	八八五〇	
奏任	俸給	一三三九五	
判任	俸給	一〇三四三	
在勤	俸	七四七三八	
妻加	俸	二二四一	
賞與	費	八三一七	
廳費	費	二〇六六三	
渡切	費	二六二三五	
		圓	

外國旅費	家族旅費	旅行手當	地所家屋借料	電信料	宴會費	機密費	雜給及雜費	臨時手當
一〇六四七二	四一五七八	一四四九二九	四一〇六	三一四一五	一八七五	五〇〇〇〇〇	七六六二七	四一三八四

事由

帝國ノ對南施策遂行上遺憾ナキラ期スル爲佛領印度支那ニ於ケル外務機構ノ擴充整備ヲ圖ルノ必要アリ依テ之カ經費昭和十六年度第二豫備金ヨリ至急支出ヲ要ス

在佛印特派大使機關ニ要スル經費

科目	金額	算出内譯	爲替補給 基本額率增額
臨時部	圓		
臨時外交施設費	一三六八三七七		
在佛印特派大使機關諸費	一三六八三七七		
勅任俸給	八八五〇	八八五〇圓	〇
奏任俸給	二二三九五		〇
官名員數			
大使	一	六六〇〇	三〇二五
公使	一	五二〇〇	三三三八
總領事	二	四六五〇	三三八八
總領事	二	三六四〇	二七三九
副領事	一	三〇四〇	一七一〇
副領事	三	二八八〇	三五六五
一人當年額金額(五月半)			八八五〇圓

判任俸給		在勤俸		妻加俸		賞與費	
10342	74738	22421	8317	209693			
書記生 28	總領事勅 2	領事 15	副領事 3	書記生 28	本省年額	在外	
9851	8500	4750	3950	2800	6600	6500	
10342	6375	26718	4444	29400	4000	7500	
0	72562	27683		209693	4000	9693	
0	72562	27683		209693	4000	9693	
0	72562	27683		209693	4000	9693	

在勤俸 72562 圓ノ了 102176 圓 27683 圓 653

本省年額 6600 圓 四月半 6693 圓
 在外 6500 圓 6693 圓

渡切費	二六二三五	年	二一〇〇〇圓	四ヶ月半分	二六二三五圓	〇	〇
外國旅費	一〇六四七二	(內譯別紙)	赴任旅費	八四七五九圓	〇	〇	〇
家族旅費	四一五七八	(內譯別紙)	出張旅費	(四ヶ月半分)	〇	〇	〇
旅行手當	四四九二九	年	(五一七〇〇圓)	一九三八七圓	〇	〇	〇
地所家屋借料	四一一〇六	事務所	年	二〇〇〇〇圓	四ヶ月半分	七五〇〇圓	三三一五〇〇圓
		官舍		二五六五〇圓			四七九五六
		勅任	六人一年額	二四〇〇圓			
			四ヶ月半分	四〇〇〇圓			
		奏任	三人一年	一三〇〇圓			
			四ヶ月半分	一三九五〇圓			

電信料 三一四一五

宴會費 一八七五

機密費 五〇〇〇〇

雜給及雜費 七六六二七

判任 二八人一人年 六〇〇圓
五ヶ月分 六三〇〇圓

二二〇五〇圓

七九八八
〇七五
五九九〇
一四〇六四
〇一四
三三七五

本省

五人 三〇〇圓
一月半分 七九八圓

在外

一五人 四〇〇圓
一七二〇〇圓
一五人 五〇〇圓
一五人 八〇〇圓
一四〇〇圓

七〇八九六圓 六一七九六〇 二四二四 二四八三一

顧問

入年六六〇〇圓 五月半 三〇二五圓
二人年五一〇〇圓 四月半 三八二五圓

囑託醫 一人月 五〇〇圓 / 四月半

二二五〇圓

囑託雇員給年

一三、五〇〇圓四ヶ月半
分 五一、八三三圓
三〇、八八一圓

傭人料

九〇〇〇
二二、八九六〇圓
五、八一四〇

臨時手當

四、一三八四

在勤俸 七二、五六二圓ノ四割ニ九〇二五圓
囑託雇員傭人料六一、七九六 $\frac{1}{2}$ ノ四割

一三、三五九圓

〇
〇
〇

出張旅費算出内譯

官名		等員數	一人當年額員數	旅費	備考
總領事	總領事(勅)	二	二〇六〇圓	四一三〇圓	
副領事	副領事	二	一六〇〇圓	二二二〇圓	
書記	書記	三	一〇五〇圓	三一二〇圓	
書生	書生	二	八七〇圓	一七四〇圓	
計	計	九	五五八〇圓	一三二二〇圓	
右ノ四ヶ月半分	補給(一割二分)			二二二六圓	
計	計			一五〇〇〇圓	

旅行手當算出内譯

官 名 員 數	赴任旅費		在勤手當及妻手當		同上爲替補給		出張旅費	
	一人當 員數ニ對 スル計	圓	一人當 員數ニ對 スル計	圓	一人當 員數ニ對 スル計	圓	一人當 員數ニ對 スル計	圓
大使	一	一五二九九	一	二七〇〇	一	八一〇	一	三二四〇
大使妻		一九四九五〇		八一〇〇		二四〇		三二四〇
顧問	一	三六一一	一	一八〇〇	一	五四〇	一	三二四〇
顧問妻		一五五五五〇		五四〇〇		一六二		三二四〇
公使	一	三七六九	一	一五〇〇	一	四五〇	一	三六四〇
公使妻		一四八四五〇		一四〇〇		一三三		三六四〇
顧問	二	三二七八	二	二〇〇〇	二	六〇〇	二	四九二〇
顧問妻		一四八四五〇		一四〇〇		一三三		四九二〇
妻		一三〇一五〇		三六〇〇		九〇〇		

合計				隨員 (奏)
				二〇、八三七
				一八三七〇
四五、二九七		七、五九二	三七七〇五	六六〇〇
	臨時手當 五、七〇〇 割ノ			六六〇〇
八、五六五〇		三、四〇〇 九、〇〇〇	一、四六〇〇〇 五、四七五〇	一九八〇
				一九八〇
一九、一二		二、七〇〇 七、〇〇〇	四、三八〇 一、六四二	一九八〇
				一九八〇
一三、〇七〇		一、二九三	二、八七四〇 一、〇七七七	一九八〇

計 一四四、九二九円

極秘

佛領印度支那ニ對スル特派大使派遣ニ關スル説明書

帝國ハ現在大東亞共榮圈ノ確立ニ邁進シツツアル所將來完成セラレタル右共榮圈内ニ於ケル佛領印度支那ノ政治、軍事及經濟的地位ノ重大ナルハ論ナキ處ナルガ、其ノ確立途上ニ在ル現在佛印ノ地位ガ政治軍事及經濟等凡ユル見地ニ於テ帝國ノ生命線ト云ハザルベカラズ

而シテ帝國ノ佛印ニ對スル施策ハ客年半頃ヨリ急速ニ活潑化シ政治

的ニハ六月援蔣物資輸送禁絶監視委員團ノ派遣、八月松岡「アンリ
ー」協定、本年三月「タイ」佛印國境紛争調停成立及七月佛印ノ協
同防衛ニ關スル日佛議定書締結、經濟的ニハ本年七月日佛經濟協定
成立ヲ見テ帝國ノ佛印ニ於ケル地位ハ漸ク確立セラレントスル状態
ニ在リ

然レドモ右諸協定ハ基本的軍事條項ヲ除キ概ネ其ノ實施ハ今後ノ間
題ニシテ從テ眞ニ帝國ガ必要トスル地步ヲ占メ得ルヤ否ヤハ將來之

等協定が充分ニ活用セラルルヤ否ヤ及更ニ新ナル讓與ヲ獲得シ得ル
ヤ否ヤニ存ス

而シテ斯ノ如ク廣汎ニ亘ル政治經濟及文化的地位ノ實現ハ現地ニ於
テ力強ク交渉施策スルニ非ザレバ所詮目的ヲ達成シ難キハ明ニシテ
是ガ爲ニハ強力ナル現地機關ノ設置ハ刻下ノ急ト謂フベシ

然ルニ強力ナル現地機關トハ一元的指揮命令ニ依リテ活動スル場合
ニ於テ云ヒ得ル次第ニシテ、其ノ爲ニハ苟モ政治經濟ニ付キ帝國ヲ

代表スル機關ハ凡テ本機關ニ統合スル外軍ヲ除キ政治經濟的各機關
殊ニ各省ヨリ其ノ擔任事項ニ付キ佛印ニ出張駐在セントスル官吏ヲ
モ右機關ニ統合スルノ要アルハ勿論ナリ、之七月二十二日付及八月
七日付閣議決定ノ認メタル所ナリ

一方佛印ハ「 Union de l'Indochine Française 」トシテ佛國ノ一植民

地的地位ニ在リ國際法上ノ外交權ヲ有セズ、我方ノ常駐機關トシテ
ハ總領事館ヲ有シ得ルノミ然ルニ前記ノ如ク強力ナル現地機關ハ總

外務省

(日本標準規格B5)

領事館ノ名稱及通常之ニ與ヘラルル觀念ヲ以テシテハ蔽ヒ得ザル所
ニシテ殊ニ佛印總督ノ地位或ハ現地駐屯日本軍司令官ノ地位ト睨ミ
合セ且廣汎且重要ナル帝國ノ要望ヲ實現セントスル帝國代表トシテ
ハ其ノ地位ハ佛印總督或ハ我現地駐屯軍司令官ノ夫ト睨ミ合スルノ
要アリ之等特派大使ヲ派遣セントスルニ到リシ理由ナリ
仍テ日佛印共同防衛成立後直チニ佛國政府ト交渉シ特派大使ノ派遣
ヲ承認セシメタリ

佛印特派大使機構別添圖表ノ如シ

外
務
省

(日本標準規格B5)



本 部

ハノイニ置ケル
彼方総督所ニ對ス

同現在員 總領事一 領事三 副領事三

大使官房

官房長
(政務部長兼任)

- 秘書課
- 文書課
- 翻譯課
- 電信課
- 會計課

領事一
副領事一

書記生十二

政務部長
(勅任)

- 一般政務
- 領事事務

領事三
副領事一

書記生三

情報部長
(勅任)

領事二

書記生二

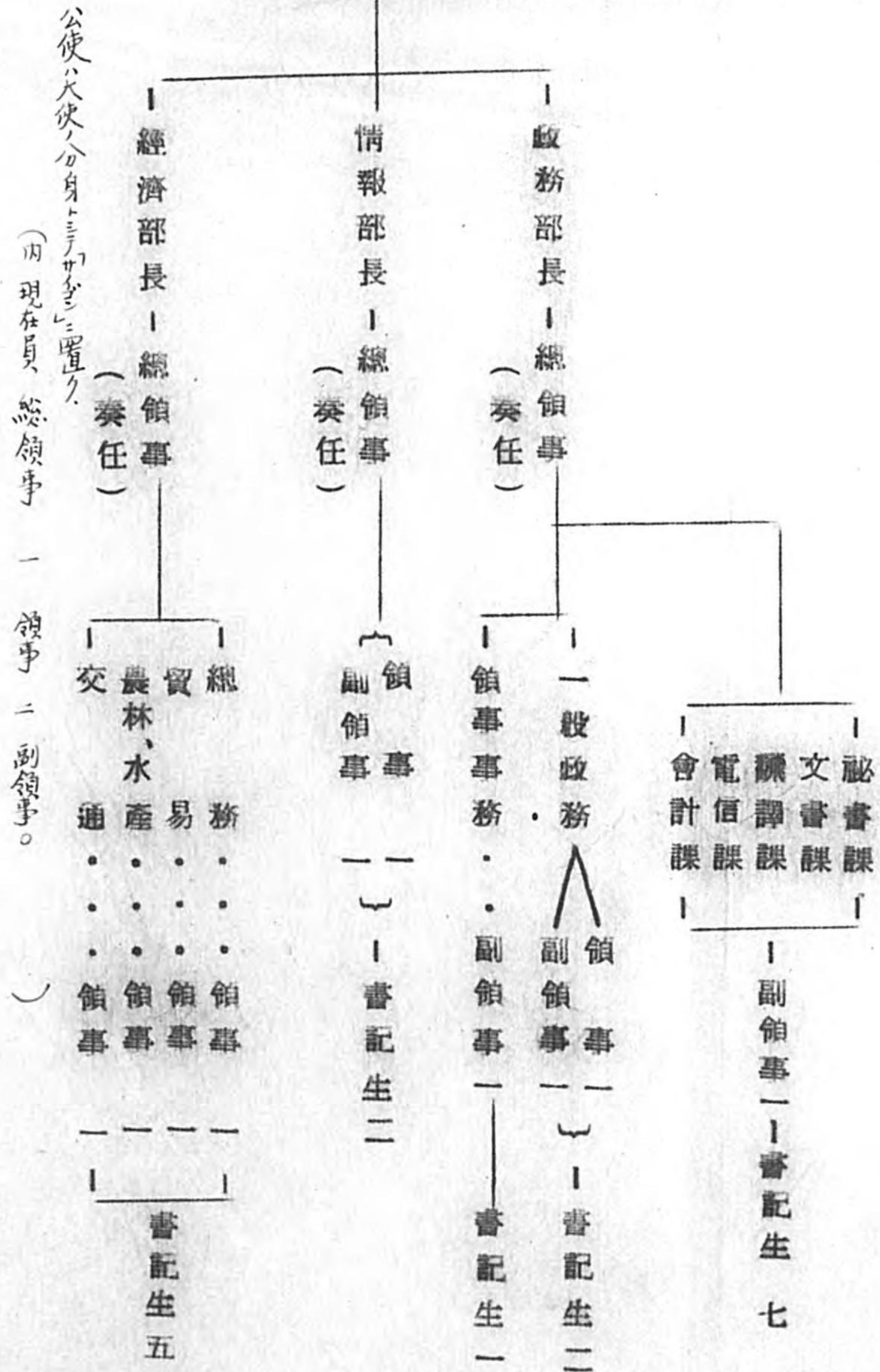
經濟部長
(勅任)

- 總務
- 金融
- 農林水產
- 鑛業
- 交通
- 通信

領事一
領事一
領事二
領事一

書記生五

西貢支部分



昭和十六年十月二十一日

法制局

宮内參事官



内閣官房總務課

佐野理事官殿

肅啓過般閣議決定相成候外務部内臨時職員設置制中改正ノ件（佛印干
係職員ノ分）追加資料別紙御查收相成度候

内閣



拜啓陳者本月十五日貴部ニ於テ外務省關係定員増加ノ件審議ノ際御
 話有之タル領事ノ缺員ハ成ルベク速ニ補充ヲ完了スル豫定ニ候間右
 様御了知相成度此段爲念申進候
 敬 具

昭和十六年十月二十日

門 脇 外務省人事課長

法制局第三部
 宮 内 参事官 殿

外 務 省

附記

法制局 宮内参事官

今夏經常職員増員當時ノ領事ノ缺員數十五名ニ比スレバ現今ノ領事缺員數ハ七名ニシテ其ノ間補充ノ實舉レルコト否ミ難ク尙原案者ハ別紙書信所掲ノ通更ニ缺員補充ノ誠意アルモノト認メラルルヲ以テ今回増員ハ第二豫備金ヲ以テ賄ハレ居ル關係モアリ、此ノ際ハ右缺員ニ拘ラズ原案ノ増員全部ヲ容認スルコトトス

以上